

# 『プラダを着た悪魔』の主要人物と関係性

～前作から続編へ、20年を経て再び交差する人間関係～

## 前作(2006年)の関係性



ミランダ・プリーストリー  
(ランウェイ誌 編集長)

完璧を求めるカリスマ上司。  
誰もが恐れ、誰もが憧れる存在。

上司と部下



厳しくも、  
アンディの才能を  
認めていく



アンディ・サックス  
(アシスタント)

ファッション業界の知識ゼロで入社。  
成長しながら自分の道を見つけていく。

ライバル関係



仕事上は対立しつつ、  
次第に互いを  
認め合うように



エミリー・チャールトン  
(ミランダの第一アシスタント)

有能で仕事熱心なライバル。  
ミランダの右腕として活躍。

信頼・サポート

アンディの味方として、  
陰ながら支える



ナイジェル

(アートディレクター)

アンディの良き理解者であり相談相手。  
ミランダとの間で板挟みになることも。

### 前作のラスト

アンディは自分の人生を取り戻すために  
ランウェイ誌を去り、ミランダのもとを離れる。  
それぞれの道へ進むことを選んだ。

## 続編(2026年)の関係性



### ミランダ・プリーストリー

業界の変化やデジタル化の波に直面し、  
雑誌の存続のために大きな決断を下す。  
強さの裏に、20年の重みと孤独が見える。

20年の時を経て…

それぞれが経験を重ね、  
立場も環境も変化した中で、  
再び交差していく。



ナイジェル

変わらずセンスとユーモアを持ち、  
アンディのことを気にかけている。  
実はアンディを再び雇うことに、  
陰で手を回していた優しさも…

信頼関係は  
今も健在



アンディ・サックス

ジャーナリストとして成功し、  
自分の信念を大切に生きる方を  
築いている。20年の経験が、  
彼女に揺るぎない強さを与えた。

かつてのライバルが、  
今は互いを尊重する  
パートナーに



エミリー・チャールトン

ファッション業界の第一線で  
活躍し続け、自分のブランドも  
手がけるまでに。アンディとは、  
ライバルから信頼できる存在へ。

この物語の  
魅力



それぞれが選んできた道、手放したもの、そして守りたいもの。

20年という時間が、人を成熟させ、関係性をより深く、より温かいものに変えていく。

